

ホールケーキ分割問題に対するカット数最小の無羨望メカニズム

梅田 博之† 浅野 孝夫‡

中央大学理工学研究科情報工学専攻† 中央大学理工学部情報工学科‡

1. はじめに

ケーキ分割問題とは、ケーキ C およびプレイヤー集合 $N = \{1, 2, \dots, n\}$, C への評価区間 $V_i, \forall i \in N$ が与えられたとき C をどのように分割して割り当てるかを考える問題である。

この問題に対し Alijani ら [1] は EFISM メカニズムを提案した。しかし、これは C が直線形の場合のみ適用可能である。ゆえに、 C が図1のようなホールケーキ形の場合は適用不可能である。

そこで本研究では、 C がホールケーキ形（以降 C はホールケーキ形とする）でも適用できるように、EFISM を一般化する。

2. 定義とメカニズムが満たすべき性質

本節ではまず必要な定義を行い、メカニズムが満たすべき性質を定義する。

図1を見て頂きたい。まず、 C に対するケーキ分割問題をホールケーキ分割問題とよぶ。また、 C 上の座標は12時の位置が0であり、右回りに大きくなり1週すると $1 = 0$ に戻る。ホールケーキ区間（以下 w 区間と呼ぶ）とは C 内の区間であり、始点の座標 a , 終点の座標 b のとき、 $[a, b]$ で表す。また、長さを $|W|$ で表す。図1より例示すると以下のようになる。

$$W_1 = [0.25, 0.5] \quad |W_1| = 0.25$$

$$W_2 = [0.75, 0.125] \quad |W_2| = 0.375$$

評価区間とは、 $V_i = [\alpha_i, \beta_i], \forall i \in N$ である。Alijani ら [1] の研究および本研究では、 $\forall i \in N$ に対し、 $V_i \not\subset V_o, \forall o \in N \setminus \{i\}$ を仮定している。また、 $V = (V_i)_{i \in N}, V_{-i} = (V_o)_{o \in N \setminus \{i\}}$ と定義する。

メカニズム M は V を入力として、割当 $A^M(V) = (A_1^M(V), A_2^M(V), \dots, A_n^M(V))$ を決定する。また $\#A_i^M(V)$ は $A_i^M(V)$ に含まれる w 区間の数であり、 $A^M(V)$ は C の分割である。 C を k 個に分割するには k 回カットする必要がある。ゆえに $A^M(V)$ のカット数とは $\sum_{i \in N} \#A_i^M(V)$ である。

効用を $U_i^M(V) = |V_i \cap A_i^M(V)|$ と定義する。

次にメカニズムが満たすべき3つの性質を定義する。

定義1 (カット数の最小性) メカニズム M がカット数の最小性を満たすとは、 $\sum_{i \in N} \#A_i^M(V) = n, \forall V$ が成立することである。

定義2 (無羨望性) メカニズム M が無羨望性を満たすとは、 $\forall i \in N$ に対し

$$|V_i \cap A_o^M(V)| \leq U_i^M(V), \quad \forall o \in N \setminus \{i\}, \forall V$$

が成立することである。

定義3 (戦略的操作不可能性) メカニズム M が戦略的操作不可能性を満たすとは、任意の入力 V に対して、どの $i \in N$ でも、 V_i をどのような V'_i に変えても

$$|V_i \cap A_i^M(V'_i, V_{-i})| \leq U_i^M(V_i, V_{-i})$$

が成立することである。

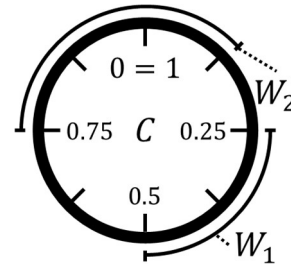


図1: ホールケーキ区間

3. 提案メカニズムと性質の証明概略

本節ではまず必要な定義を行い、提案メカニズム WEFISM (Whole cake EFISM) とその実行例を示す。最後にこれが2節で述べた性質を満たすことを論じる。

3.1 WEFISM のための定義

チェーンは隙間ない w 区間の列である。 $K_j = (W_{j(1)}, W_{j(2)}, \dots, W_{j(n_j)})$ がチェーンであるとは、 $b_{j(l)} = a_{j(l+1)}, 1 \leq \forall l \leq n_j - 1$ が成立することである ($n_j = 1$ のときは無条件でチェーンである)。また、 $N_j = \{j(1), j(2), \dots, j(n_j)\}$ とする。

次にシュリンクについて述べる。これは C, V から K_j に関する w 区間 $[a_{j(1)}, b_{j(n_j)}]$ を除くための操作である。以下に概要を示す。

```

Shrink( $C, V, K_j$ )
 $C \leftarrow [0, |C| - |[a_{j(1)}, b_{j(n_j)}]|]$ ;
 $V_i \leftarrow S(V_i, K_j); \forall i \in N$  /* 更新した  $C$  上に  $V_i$  を再配置; */
    
```

ここからは、図2を使ってシュリンクの例示をする。(1)はシュリンク前の様子である。ここから K_j をシュリンクすると、 $C' = [0, 0.625]$ となり、 $S(V_1, K_j) = [0.125, 0.25], S(V_2, K_j) = [0.375, 0.5]$,

An envy-free mechanism with minimum number of cuts for the whole cake cutting problem

†Hiroyuki Umeda, Information and System Engineering Course, Graduate School of Science and Engineering, CHUO University

‡Takao Asano, Department of Information and System Engineering, Faculty of Science and Engineering, CHUO University

$S(V_3, K_j) = [0, 0.125]$ となる。

w区間Wのシュリンクされていない $C = [0, 1]$ 上への座標変換を $f(W)$, その終点を $f_b(W)$ とする。例を示すと、以下ようになる。

$$f(S(V_3, K_j)) = [0.625, 0.75], f_b(S(V_3, K_j)) = 0.75.$$

また、チェーン K_j がロックされているとは $f_b(W_{j(n_j)}) = f_b(V_{j(n_j)})$ が成立することである。

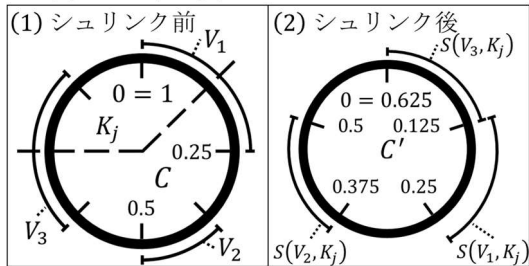


図2: K_j をシュリンクした例 ($n = 3$)

3.2 WEFISM の概略と例示

ここでは WEFISM の概略と例示をする。ただし $\delta > 0$ であり、% は剰余演算子である。

```

WEFISM ( $C = [0, 1], V, N$ )
For each  $i \in N$ 
   $K_i \leftarrow [a_i, a_i]; (1)$ 
 $K \leftarrow \{K_1, K_2, \dots, K_n\}; (1)$ 
While  $K \neq \phi$  do
  For each  $K_j \in K$  do
    /* 全ての  $W_{j(l)}$  を同時に  $\delta$  だけ大きくする */
     $W_{j(l)} \leftarrow [a_{j(l)} + (l-1) * \delta, (b_{j(l)} + l * \delta) \% |C|]; \forall j(l) \in N_j (*)$ 
  For each  $K_j \in K$  do
    If  $K_j$  がロックされている then (3)
       $A_{j(l)}^M(V) \leftarrow f(W_{j(l)}); \forall j(l) \in N_j (4)$ 
      Shrink ( $C, V, K_j$ );  $K \leftarrow K \setminus K_j; (5)$ 
    Elseif  $b_{j(n_j)} = a_{j'(1)}, \exists K_{j'} \in K$  then (2)
       $K_j \leftarrow K_j \cup K_{j'}; K \leftarrow K \setminus K_{j'}; (2)$ 

```

以下では図3を用いて実行例 ($n = 3$) を示す。

- (1) K_1, K_2, K_3 および K の初期化を行う。
 $K_1 = \{[0, 0]\}$ $K_2 = \{[0.125, 0.125]\}$
 $K_3 = \{[0.5, 0.5]\}$ $K = \{K_1, K_2, K_3\}$
- (2) (*) により $|W_{i=\{1,2,3\}}|$ が 0.125 に拡大した時、 $b_{1(1)}$ と $a_{2(1)}$ が一致するため K_1 と K_2 を結合する。
 $K_1 = \{[0, 0.125], [0.125, 0.25]\}$
 $K_3 = \{[0.5, 0.625]\}$ $K = \{K_1, K_3\}$
- (3) $|W_{i=\{1,2,3\}}| = 0.25$ の時、 K_1 はロックされる。
 $K_1 = \{[0, 0.25], [0.25, 0.5]\}$ $K_3 = \{[0.5, 0.75]\}$
- (4) プレイヤー $i = \{1(1) = 1, 1(2) = 2\} \in N_1$ への割当を決定する。
 $A_1^M(V) = [0, 0.25]$ $A_2^M(V) = [0.25, 0.5]$
- (5) Shrink (C, V, K_1) を行い、 K から K_1 を除く。
 $V_3 = [0, 0.5]$ $K_3 = \{[0.25, 0.5]\}$ $K = \{K_3\}$
(3, 4, 5) $|W_3| = 0.5$ の時、 K_3 がロックされプレイヤー $i = \{3(1) = 3\} \in N_3$ への割当が決定する。 K から K_3 が除かれ、 $K = \phi$ となるため終了する。

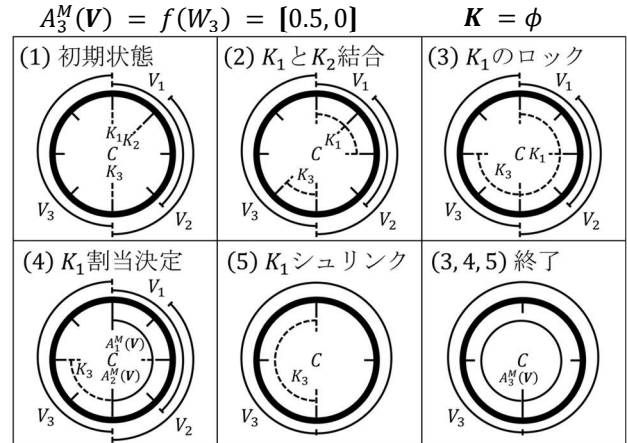


図3: WEFISM の実行例 ($n = 3$)

3.3 定理とその証明概略

ここでは本研究の定理とその証明概略を示す。

定理1. WEFISM はホールケーキ分割問題に対し、カット数の最小性・無羨望性・戦略的操作不可能性を満たすメカニズムである。

証明概略

ここでは紙面の都合上、カット数の最小性と無羨望性のみを示す。

(カット数の最小性)

1つのw区間を $\forall i \in N$ に対して割当てるため、 $\sum_{i \in N} \#A_i^M(V) = n, \forall V$ が成立する。

(無羨望性)

ここでは、チェーン K_j に注目し、以下 (i) 式が $\forall j(l) \in N_j$ に対して成立することを示す。

$$|V_{j(l)} \cap A_o^M(V)| \leq U_{j(l)}^M(V), \forall o \in N \setminus \{j(l)\} \quad (i)$$

o を $|A_o^M(V)|$ に関して場合分けする。
 $|A_o^M(V)| \leq |A_{j(l)}^M(V)|$ となる $o^- \in N \setminus \{j(l)\}$
割当 $A_{j(l)}^M(V)$ は $V_{j(l)}$ に必ず含まれる。ゆえに、 $|V_{j(l)} \cap A_{j(l)}^M(V)| = |A_{j(l)}^M(V)|$ が成立。従って仮定から $\forall j(l) \in N_j$ に対して以下が成立する。
 $|V_{j(l)} \cap A_o^M(V)| \leq |A_o^M(V)| \leq U_{j(l)}^M(V), \forall o^- \quad (ii)$
 $|A_o^M(V)| > |A_{j(l)}^M(V)|$ となる $o^+ \in N \setminus \{j(l)\}$

$A_o^M(V)$ は K_j に含まれないため、 $A_o^M(V) \cap [a_{j(1)}, b_{j(n_j)}] = \phi$ である。またロックの定義から、 $V_{j(l)} \subseteq [a_{j(1)}, b_{j(n_j)}]$ が成立。従って $\forall j(l) \in N_j$ に対して以下が成立する。

$$0 = |V_{j(l)} \cap A_o^M(V)| \leq U_{j(l)}^M(V), \forall o^+ \quad (iii)$$

(ii), (iii) より (i) が成立する。またこの議論は全てのチェーンについて言えるため、

$$|V_i \cap A_o^M(V)| \leq U_i^M(V), \quad \forall o \in N \setminus \{i\}, \forall V$$

が成立する。

参考文献

[1] R. Alijani, M. Farhadi, M. Ghodsi, M. Seddighin, A. S. Tajik: Envy-free mechanisms with minimum number of cuts. AAAI-17, 2017, pp. 312-318.